

女子大学生のファッション及びSDGsに対する意識・行動に関する調査

1934016 加藤瑠夏（平林ゼミ）

目的

大学3年生の時に愛知県が開催する「かがやけ☆あいちサステナ研究所」に参加した。その際、どのような条件であれば若者が環境配慮型商品を購入したいと思うかについてアンケート調査を行ったところ、「値段が安い」という回答が最も多かった。ここから、環境配慮型商品の需要を増加させる難しさを痛感した。

そこで、若者の環境に配慮した購買行動の促進のために、環境や社会に配慮したファッション（Sustainable-fashion）に対する意識やSDGsへの関心と購買における価値観がどのように関係しているかを分析することにした。

方法

アンケート調査

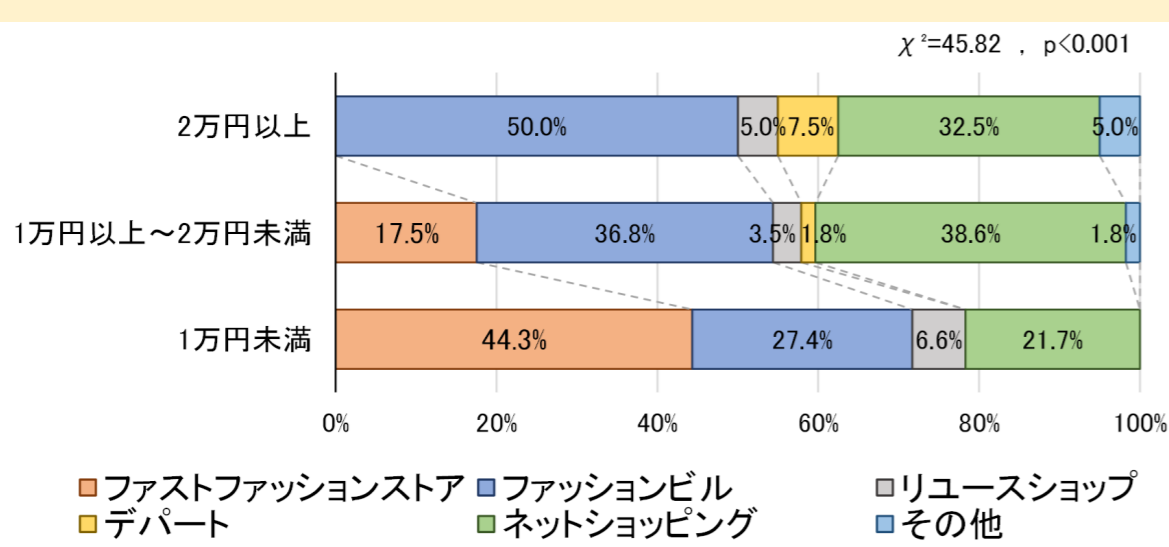
対象：女子大学生203名
 期間：2022年10月中旬～下旬
 調査方法：インターネット調査法（Google Forms）

調査内容

- ・衣服の購買行動
- ・衣服購入・利用時の意識
- ・ファストファッションに対する意識
- ・衣服の処分方法
- ・サステナブルファッションに対する意識（取り入れたいか）
- ・SDGsに対する意識
- ・SDGsに関する行動
- ・アパレル産業における環境問題・社会問題に関する知識

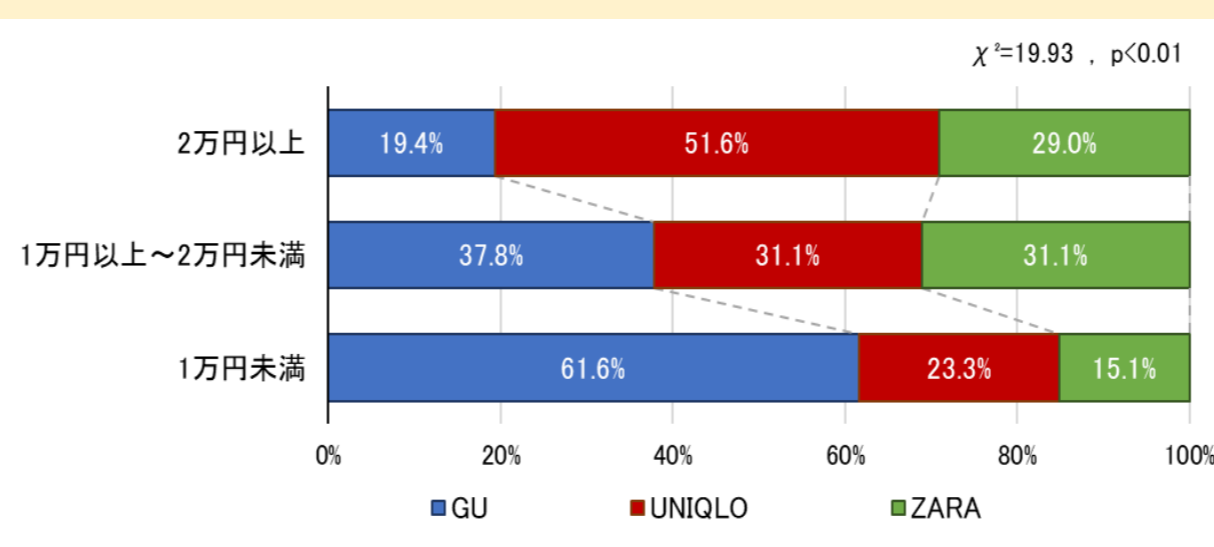
結果

一月の被服費と購入先との関係



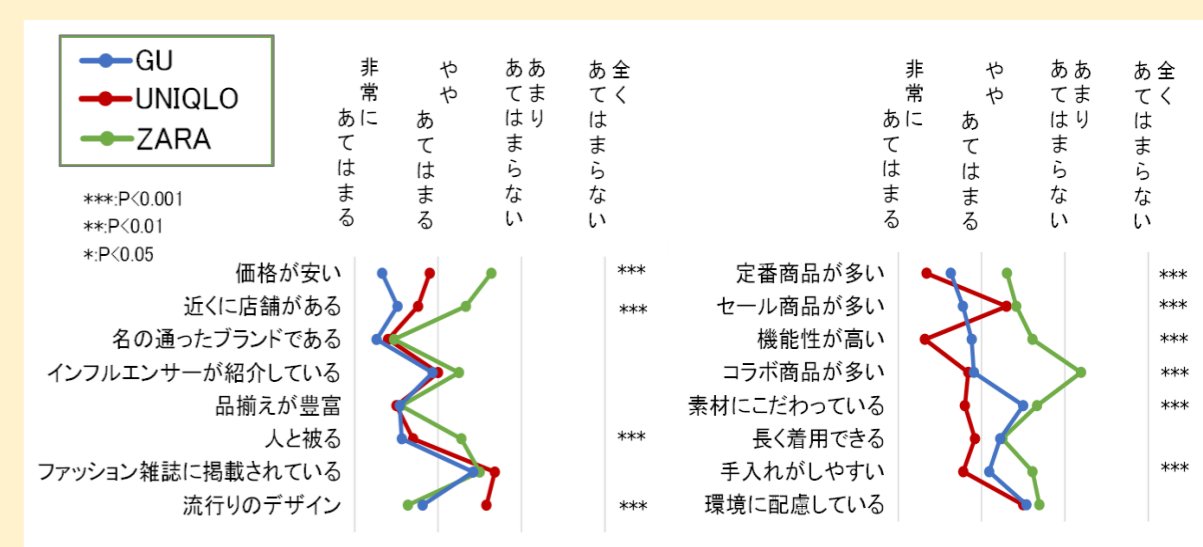
一月の被服費が低い人ほど、ファストファッションを利用

一月の被服費と最も利用するファストファッションとの関係



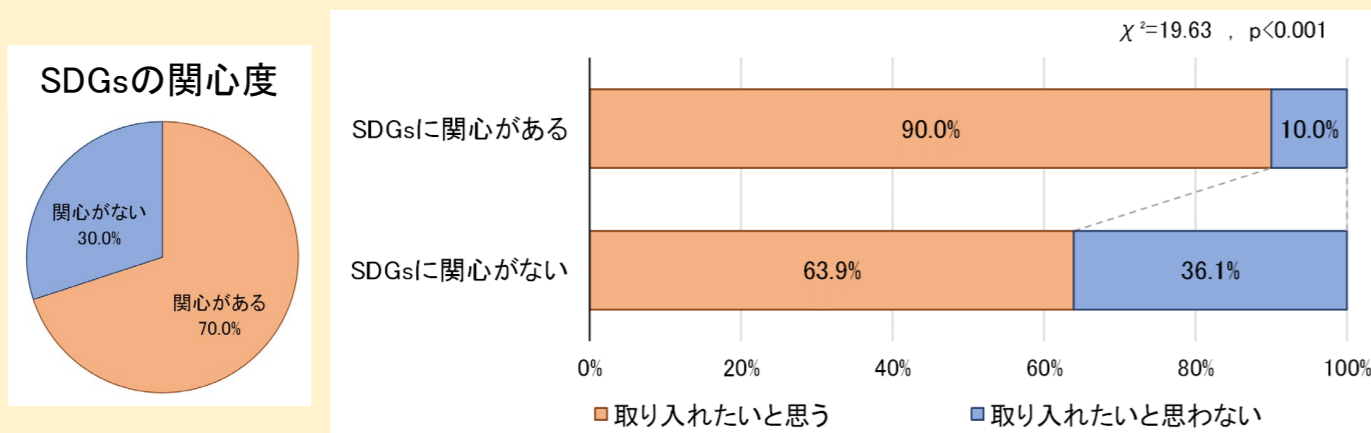
一月の被服費が高い人：UNIQLO を最も利用
 一月の被服費が低い人：GUを最も利用

最も利用するファストファッションに対するイメージ



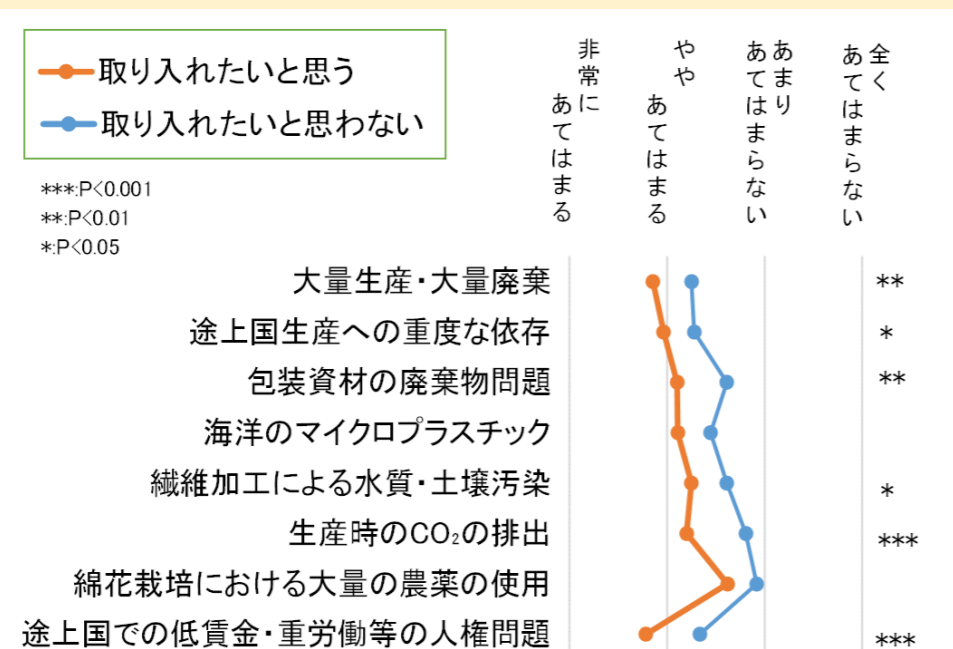
ファストファッション：品揃えが豊富、環境には配慮していない
 GU：価格が安い、セール商品が多い

SDGsの関心度とサステナブルファッションに対する意識との関係



SDGsに関心がある人：9割がサステナブルファッションを取り入れたい
 SDGsに関心のない人：6割がサステナブルファッションを取り入れたい
 →サステナブルファッションに対する意識は高い

アパレル産業における環境問題に関する知識のサステナブルファッションに対する意識の高さによる比較

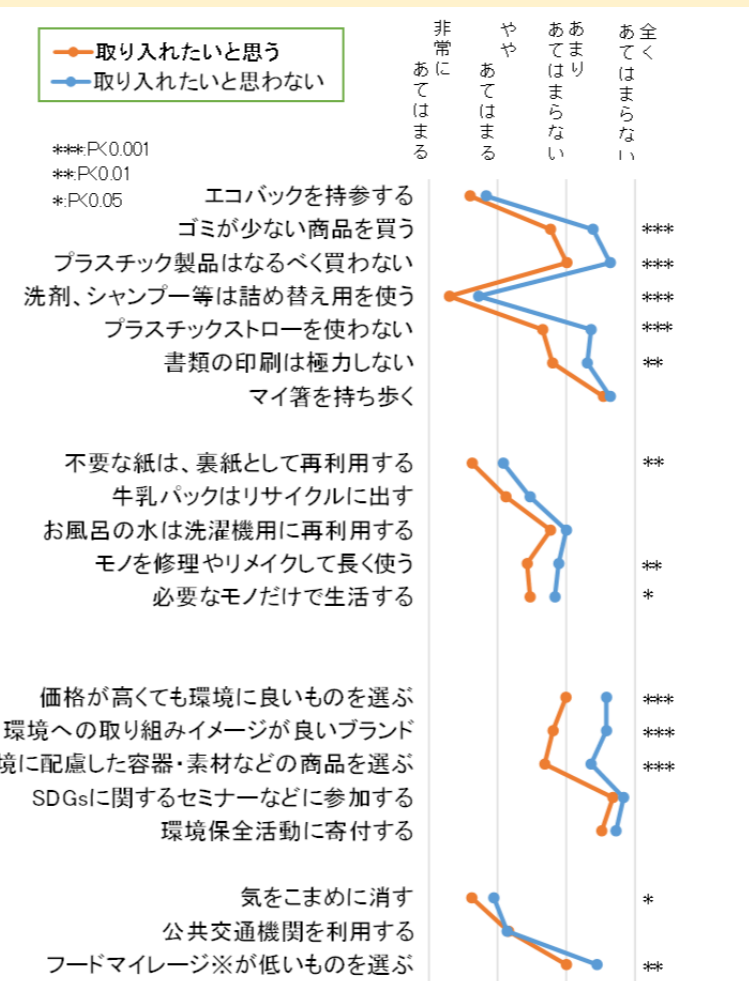


サステナブルファッションに対する意識が高い人ほどアパレル産業の環境問題に関する知識がある

意識を高める ← 「環境問題に関する教育」が必要

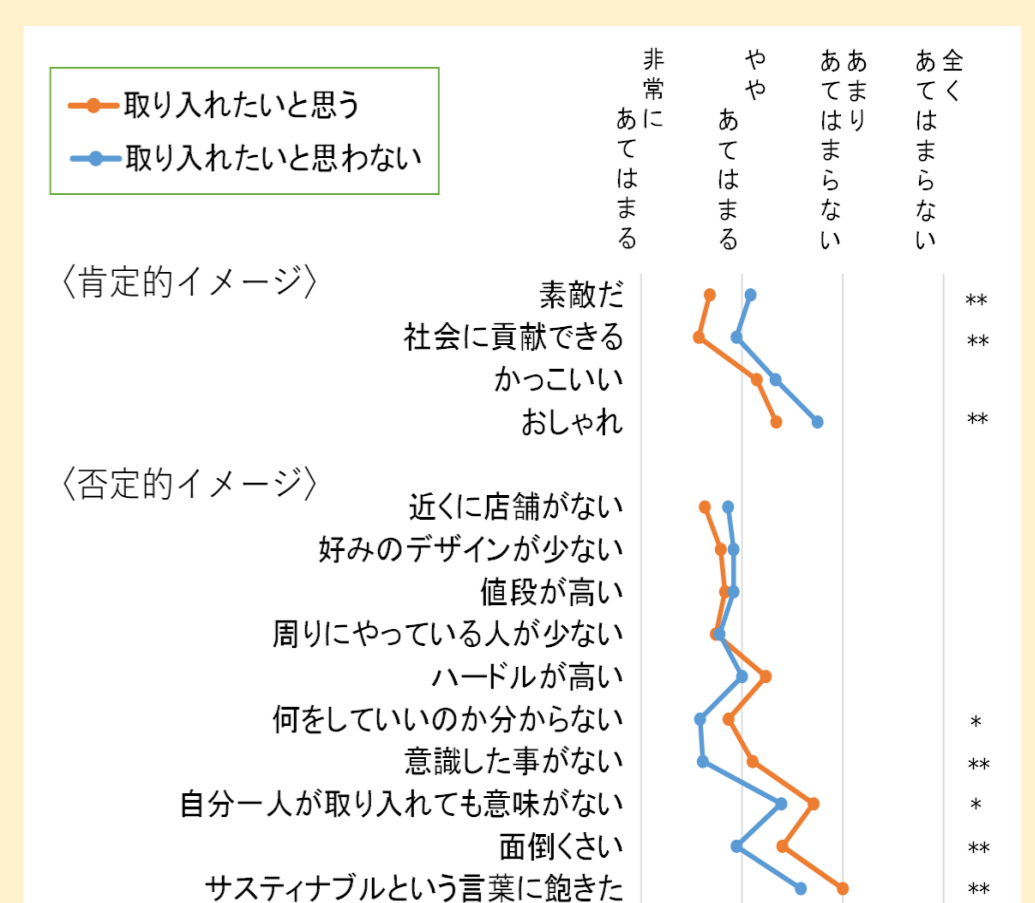
女子大学生は、安い商品を求める → 低価格商品の需要が高い

SDGs行動のサステナブルファッションに対する意識の高さによる比較



- 生活に溶け込んだSDGs行動はできている
- ▲ 積極的に環境に配慮するような行動はできていない

サステナブルファッションに対するイメージの意識の高さによる比較



- ・肯定的イメージと否定的イメージの両方を持っている
- ・意識が高い人は低い人に比べて：肯定的イメージは高く、否定的イメージは低い

積極的に環境に配慮する行動ができない理由

- ・何をしてもいいかわからない
- ・意識したことがない
- ・好みのデザインが少ない
- ・価格が高い

- ・具体的な行動に通じる情報を提供
- ・意識して行動できるような提案
- ・購入したくなるようなデザイン
- ・価格が高くても購入したくなるような付加価値をつける

結論

アパレル産業における環境問題に関する情報提供と教育

サステナブルファッションに対する意識を高める

環境に配慮した購買行動の促進

環境配慮型商品の新たなPR方法の提案

- ・ポイントやノベルティ
- ・環境への貢献度を数値化
- ・ファッション産業について映画で学習
- ・種類や品揃えを豊富に

SDGs 行動・サステナブルファッション行動の誘発